

2026 年 8 月 26 日

米国:8 月 CB 消費者信頼感は 89.4 へ低下、期待指数が大幅悪化 ～景気・雇用見通しが慎重化、個人消費の抑制要因に～

経済調査部 主任エコノミスト 桂畑 誠治

(Tel : 050-5474-7493)

要旨

指標結果：2026 年 8 月の米CB消費者信頼感指数（速報値）は 89.4 と、市場予想（90.2）を下回り前月から悪化。景気後退のシグナルとされる 80 を割り込む「期待指数（68.2）」の大幅低下が全体を押し下げた。

消費者心理：足元の労働市場の持ち直しから現況判断は上昇したものの、中東情勢による地政学リスクやガソリン・食料品の高止まりが将来不安を増幅させている。自動車や住宅などの耐久財購入計画も低下し慎重姿勢を強めており、消費の減速を示唆している。

FRBへの影響と市場の反応：1 年先の期待インフレ見通しが 5.8%へ上昇するなどインフレ定着リスクが根強い。景気の堅調さが続く中、家計のインフレ心理定着を阻むため、FRBはタカ派的なスタンスを維持し、政策金利の据え置きを継続する見通し。発表直後の市場では、景気減速懸念から米長短期金利が低下した。

1. 期待悪化を受け市場予想を下振れ、消費の鈍化を示唆

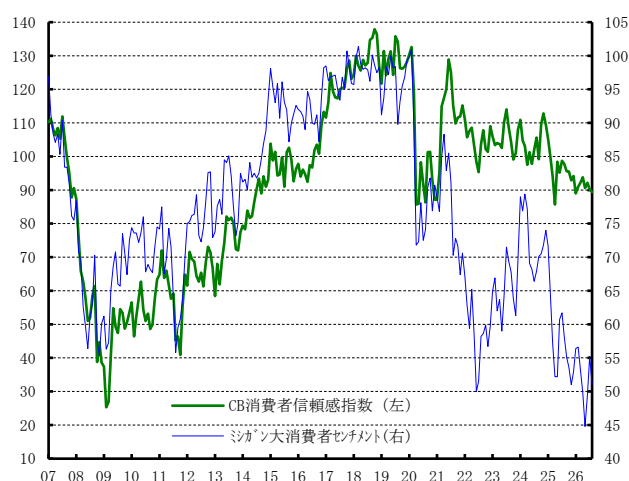
2026 年 8 月の米コンファレンス・ボード（CB）消費者信頼感指数（速報値）は 89.4 となり、前月の 90.2（改定値、速報値 90.8）から前月比 0.8 ポイント低下した。これは、市場予想中央値（90.2）や筆者予想（92.9）を下回る結果である。発表直後の市場では、景気減速懸念から米長短期金利が低下した。指数はこれで 18 カ月連続で基準値の 100（1985 年＝100）を下回るなど、地政学リスクやエネルギーコスト負担が逆風となり、引き続き低位で推移している。当面の個人消費の伸びが減速傾向をたどり、緩やかにとどまる可能性を示唆している。

指数の内訳をみると、構成要素間で明暗が分かれた。期待指数は 68.2（前月 74.0：速報値 74.7）と前月比 5.8 ポイント悪化し、景気後退のシグナルとされる境界線（80）を大きく割り込み、先行きへの警戒感の強まりを示した。一方、現況指数は 121.2（前月 114.4：速報値 114.9）と前月比 6.8 ポイント上昇した。足元の労働市場の持ち直しが現況を押し上げたものの、中東情勢への不安や将来のコスト高への警戒が期待指数を冷やした。

消費者信頼感（Consumer Confidence）

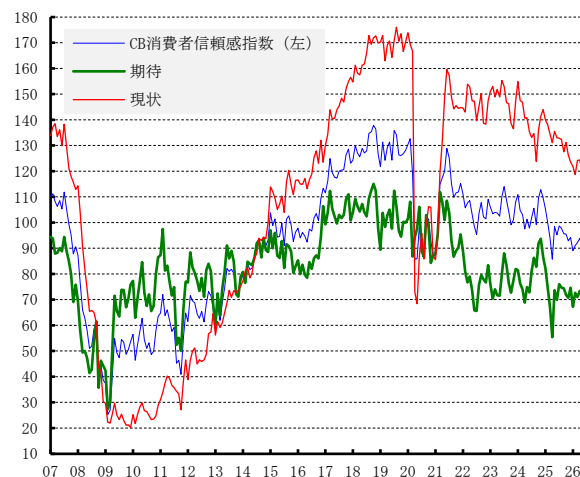
消費者信頼感指数										ミシガン大学消費マインド ^①		
		期待指数		雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画			期待	現状
		期待指数	現状指数	充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅			
25/08	97.8	74.7	132.4	30.2	19.1	20.2	23.5	11.7	5.8	58.2	55.9	61.7
25/09	95.6	74.4	127.5	26.9	18.2	19.3	22.6	11.4	6.3	55.1	51.7	60.4
25/10	95.5	71.8	131.2	28.6	18.3	18.9	22.2	12.2	5.9	53.6	50.3	58.6
25/11	92.9	70.7	126.3	28.2	20.1	18.1	25.1	12.4	6.2	51.0	51.0	51.1
25/12	94.2	74.6	123.6	27.5	19.1	18.7	21.3	11.5	5.5	52.9	54.6	50.4
26/01	89.0	67.2	121.8	25.8	19.0	16.5	23.7	12.2	5.6	56.4	57.0	55.4
26/02	91.0	72.6	118.7	26.7	21.0	17.6	21.2	12.4	6.0	56.6	56.6	56.6
26/03	92.2	71.0	124.1	27.4	21.3	18.1	21.4	12.6	5.8	53.3	51.7	55.8
26/04	93.8	73.4	124.4	26.9	19.4	19.4	23.8	13.3	7.0	49.8	48.1	52.5
26/05	90.6	71.4	119.4	24.8	19.8	18.8	23.2	12.6	6.2	44.8	44.1	45.8
26/06	92.2	74.7	118.5	25.5	21.7	18.9	20.7	13.6	6.6	49.5	50.7	47.7
26/07	90.2	74.0	114.4	24.4	21.7	17.8	21.6	12.9	6.5	55.2	55.4	54.8
26/08	89.4	68.2	121.2	27.0	19.5	16.8	23.1	12.3	5.2	51.0	50.6	51.8

（図表）消費者マインドの動向（月次）



（出所）CB、ミシガン大学

（図表）消費者マインドの動向（月次）



（出所）CBより第一ライフ資産運用経済研究所作成

2. 悲観バイアスが継続し、戦争、食料品、貿易、雇用への警戒が拡大

発表元によると、「8月も経済に対するやや悲観的なバイアスが継続」している。回答者の「一般的な物価（インフレ）」、特に「石油・ガソリン価格」に関する言及割合は、8月も引き続き高い水準を維持している。8月は「戦争／紛争」への言及が再び増加に転じた。また、「食料品」、「貿易」、そして「雇用／仕事」に関する言及も8月に増加した。生活必需品価格の高止まりが暮らしを直接圧迫している状況がうかがえる。

3. 景気・雇用の先行き懸念が根強く、所得期待も縮小

項目別にみると、足元の景気・雇用環境に対する見方はともに強まったものの、先行き不透明感の高まりによる期待指数の悪化が現況判断の改善を上回った。

現況指数の構成項目では、現在の景気判断（「良い」－「悪い」）が+1.3（前月+1.2：速報値+1.1）へわずかに上昇したほか、現在の雇用機会判断（「充分」－「困難」）も+7.5（前月+2.7：

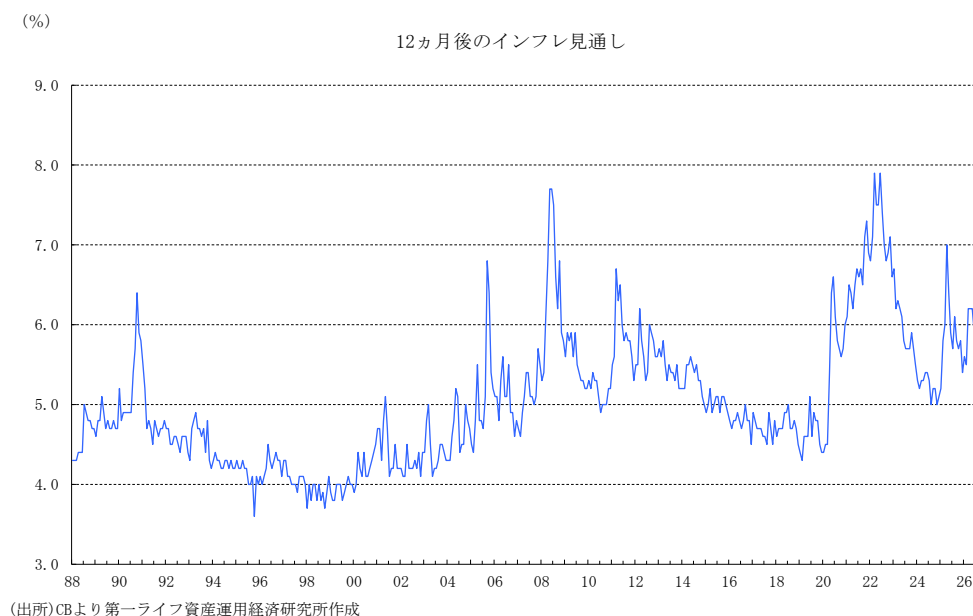
速報値+3.1) へとプラス幅を拡大させ、足元の雇用に対する見方は楽観度を増した。

一方、期待指数の構成項目は全面的な悪化を示した。6 カ月後の景気に対する見方(「良くなる」-「悪くなる」)は▲6.3(前月▲3.8:速報値▲3.3)へと悪化し、悲観論が強まった。さらに、6 カ月後の収入に対する見方(「増加する」-「減少する」)は+3.8(前月+6.9:速報値+7.3)と低下しており、ガソリン価格の再上昇などを背景に所得増加への期待は弱まっている。また、6 カ月後の雇用に対する見方(「多くなる」-「少なくなる」)は▲11.5(前月▲8.9:速報値▲8.6)とマイナス幅を拡大させており、雇用の先行きへの懸念は強まっている。さらに、高金利や先行きの不透明感を反映し、自動車や住宅、大型家電などの「耐久財購入計画」の割合も低調に推移しており、マインド悪化が実際の高額消費を抑圧する行動として現れ始めている点は、生活者の慎重姿勢を裏付けている。

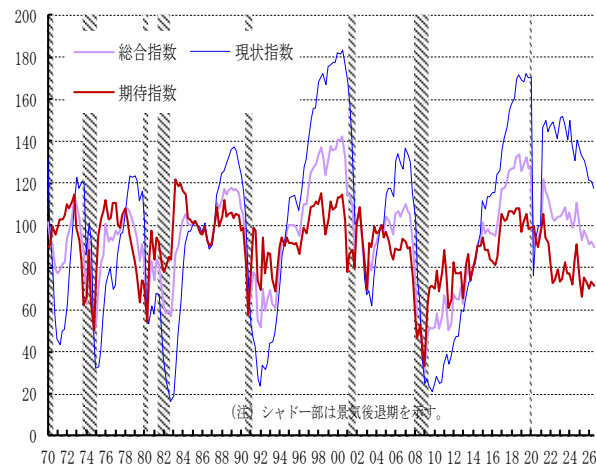
4. インフレ心理の定着を阻むためFRBはタカ派的据え置き継続へ

インフレ面では、1 年先のインフレ見通しが 5.8% (前月 5.6%) へと上昇し、依然として高水準での推移が続いている。なお、ミシガン大学消費者信頼感調査における 1 年先の期待インフレ率も上昇傾向を示している。

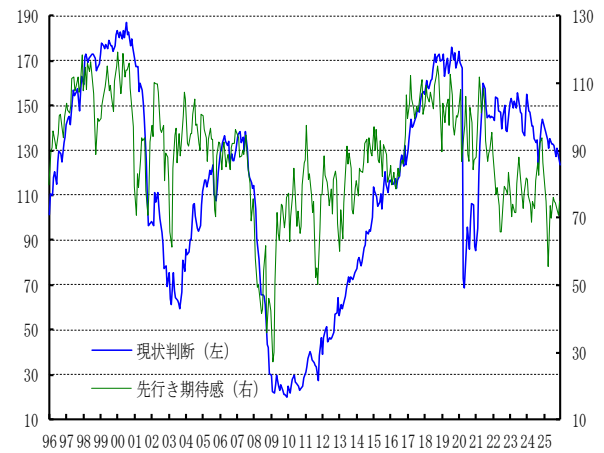
中東情勢などに起因するエネルギー価格の高止まりは、消費者のインフレ心理を一時的な変動から高水準での定着へと変質させるリスクを内包している。家計におけるインフレ期待の定着を抑制すべく、FRBはタカ派的な姿勢のもと、政策金利を高水準に据え置き続けると考えられる。



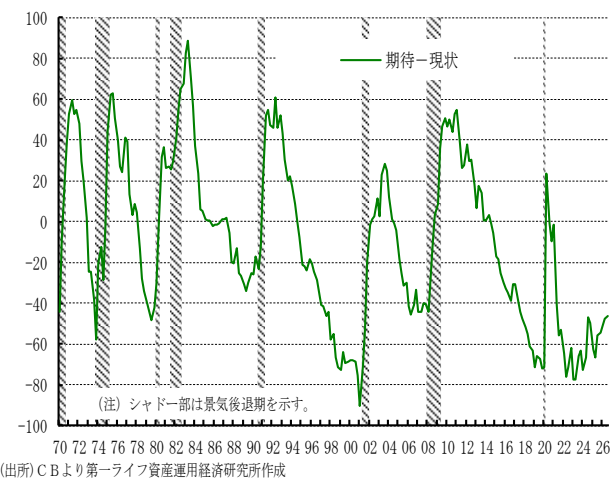
消費者信頼感指数の推移(四半期)



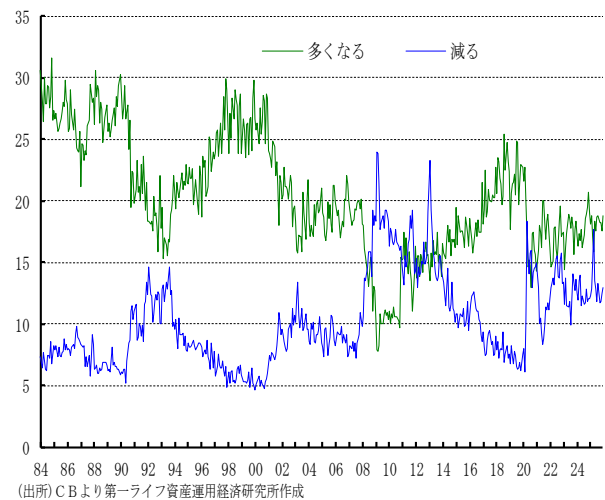
消費者信頼感指数の推移



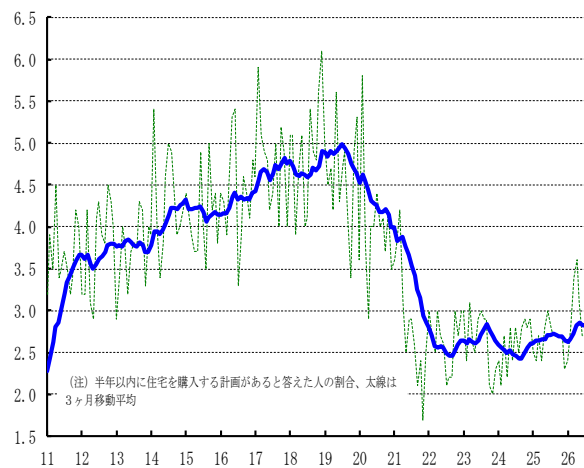
(期待指数-現状指数)の推移



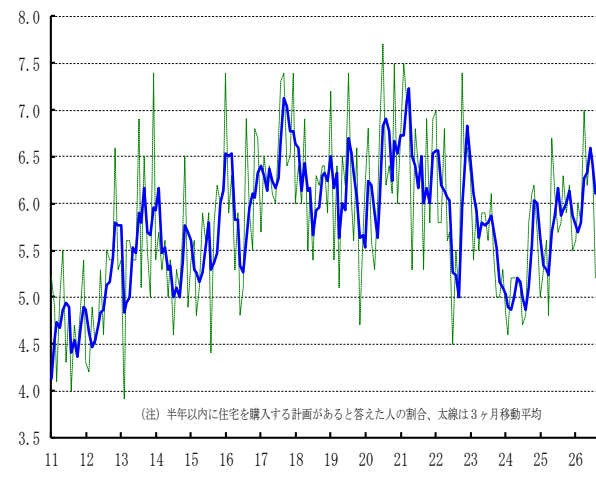
(%) 6ヶ月後の収入見通し

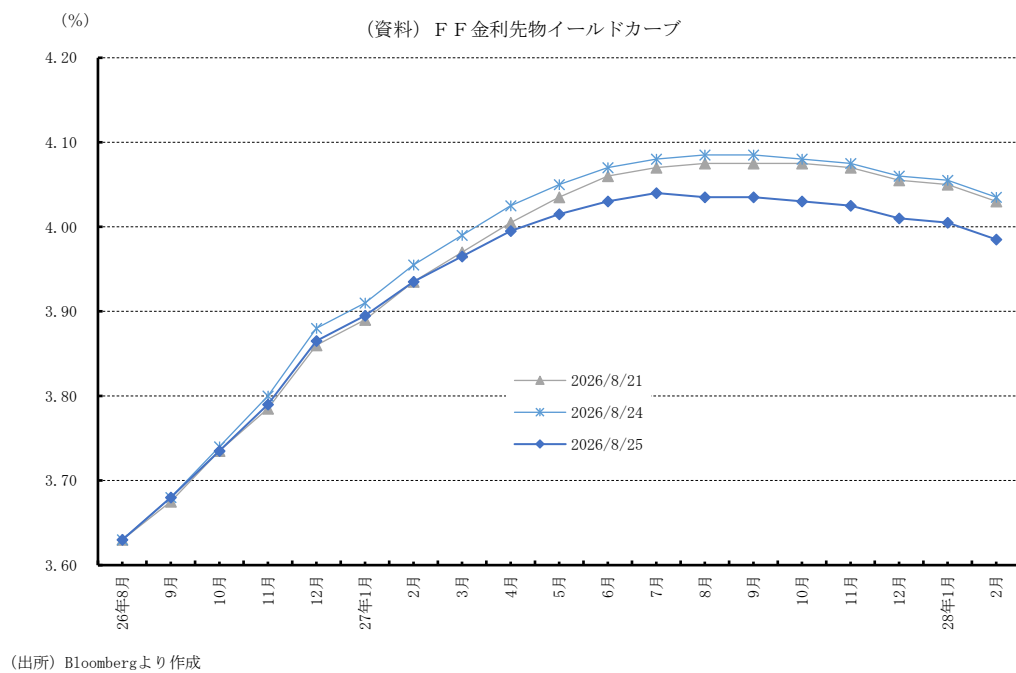


(%) 新車購入計画比率の推移



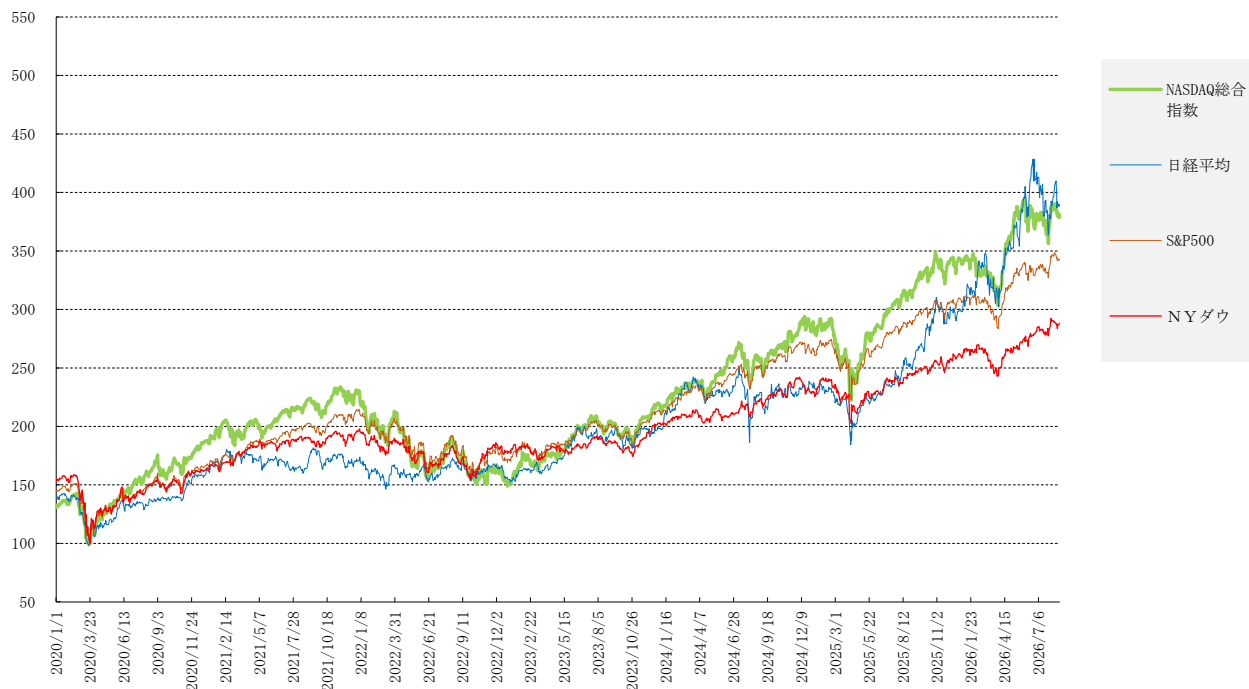
(%) 住宅購入計画比率の推移





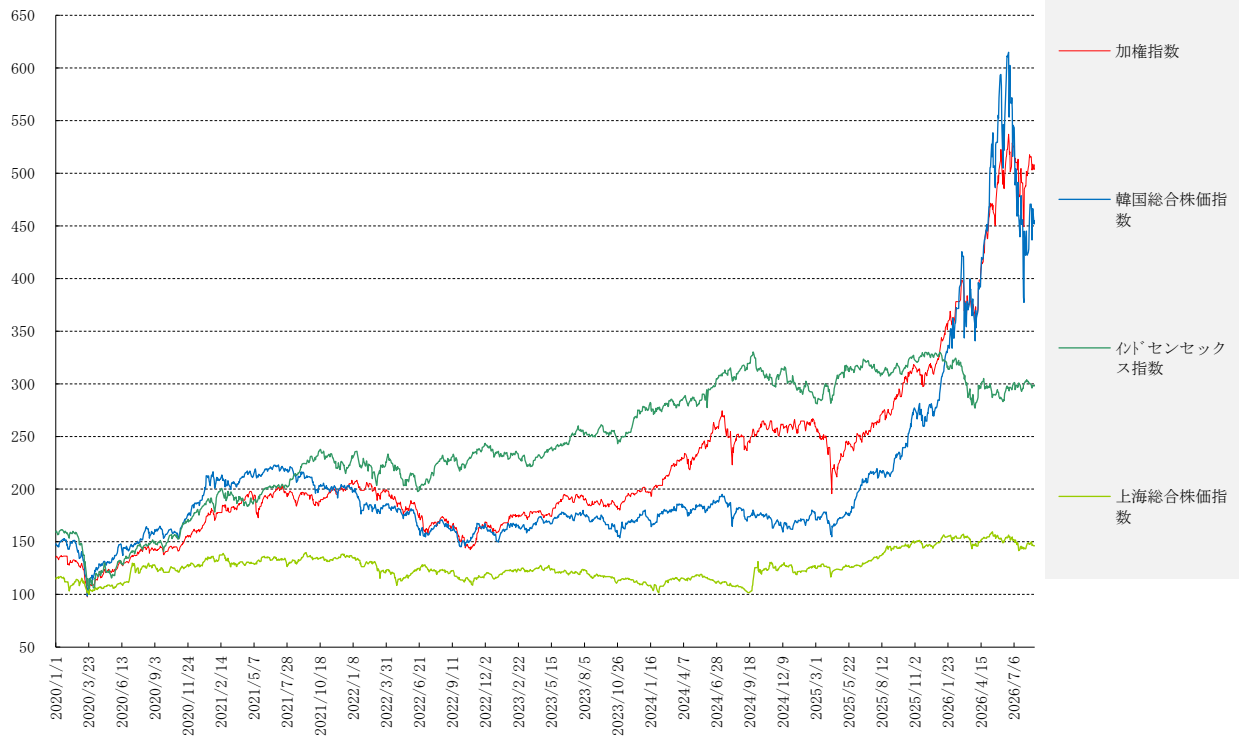
2020. 3. 23=100

株価動向



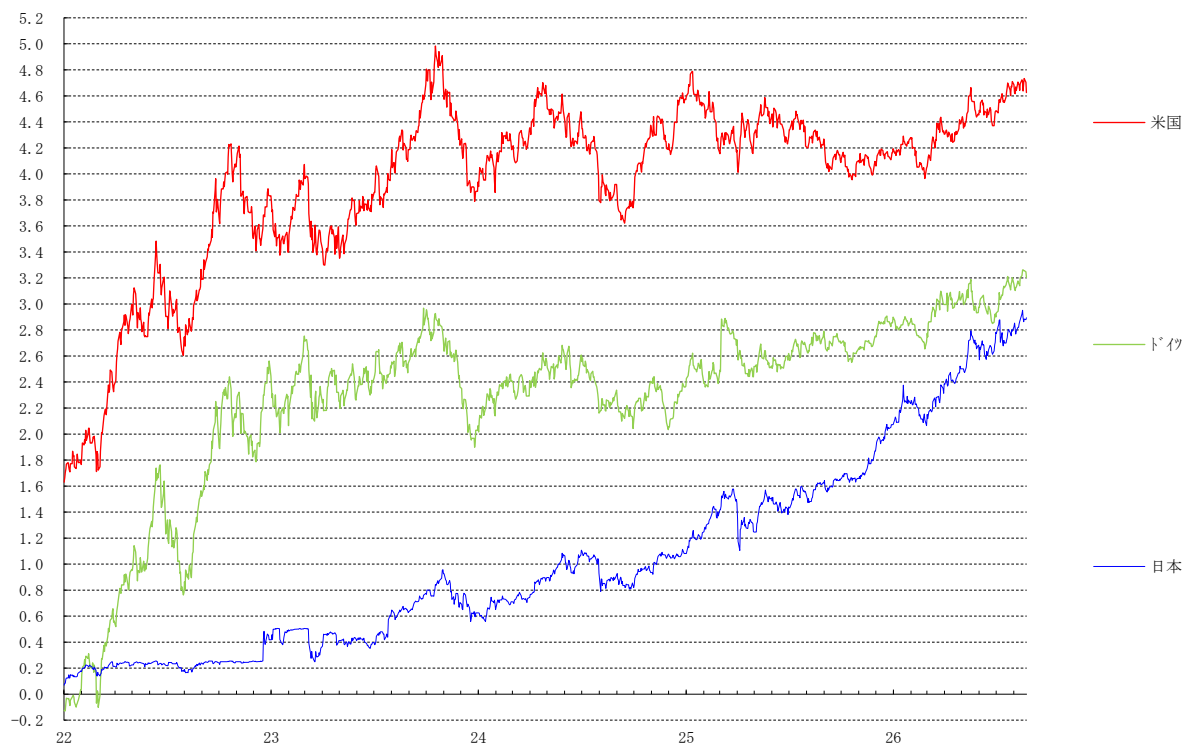
2020. 3. 23=100

株価動向



(%)

日米独10年国債利回り



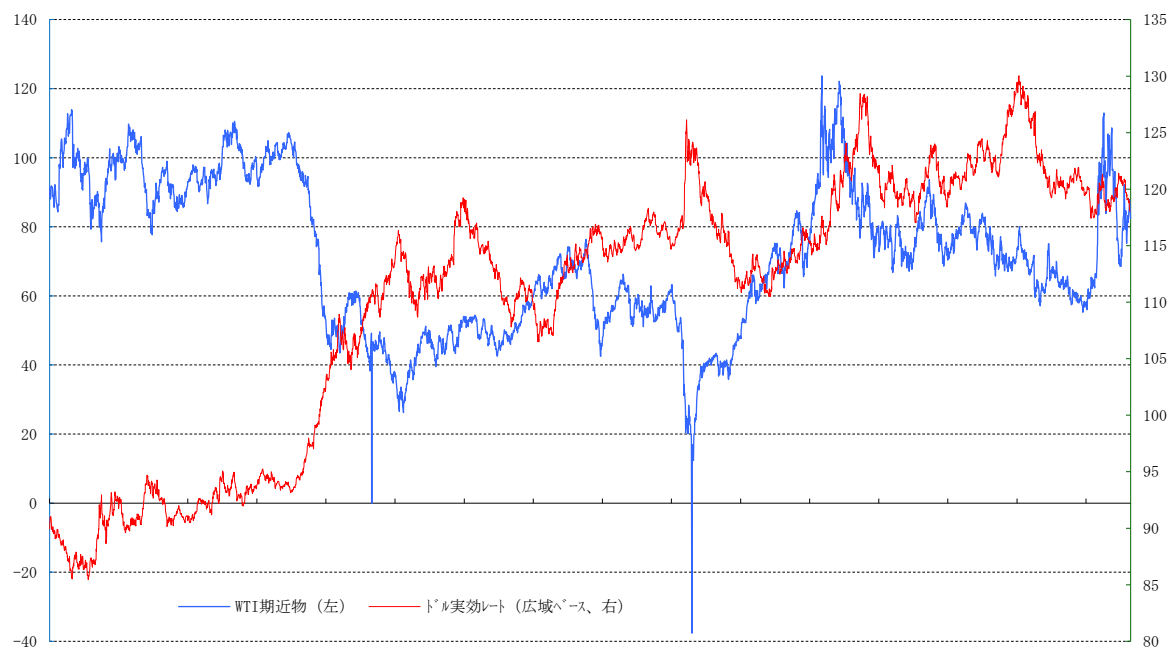
(%)

米英豪10年国債利回り



(ドル/バレル)

(図表) ドル実効レートとWTI期近物の推移



(出所) FRB, CME

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一ライフ資産運用経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。